

Canon

TOKYO  
1995-2025

Takehiko Nakafuji

DOWN  
ON  
THE  
STREET

TOKYO  
1995-2025

Photo Exhibition

DOWN  
ON  
THE  
STREET

キヤノンギャラリー S (キヤノン S タワー1F)  
10:00-17:30 日曜・祝日休館 入場無料

CANON  
GALLERY





# 中藤毅彦 写真展

TALK EVENT トークイベント

2025年2月22日(土) 14:00-15:30

共に写真作品に関わる編集者であり、また自身も写真作家でもある佐伯剛氏と村上仁一氏をお招きし「東京を撮る」事についての鼎談を開催します。

会場 キヤノンホール S(東京都港区港南 2-16-6 キヤノンSタワー 3F)

ゲスト 佐伯剛氏(かせたび舎代表、写真家) 村上仁一氏(雑誌「写真」編集長、写真家)

テーマ 「東京を撮る」

定員 150名(先着申込、参加無料)

※お申込み、詳細はウェブサイト(canon.jp/gallery)よりご確認ください。

## 写真集「DOWN ON THE STREET」

2024年7月刊行 | ソフトカバー・スケルトン装  
ページ数:208ページ | サイズ:W225×H297mm  
言語:日本語・英語 | 発行元:ギャラリー・ニエス  
定価:6,500円(＋税)

東京の路上を撮り続けて、気がつくともう30年以上になる。決して短い時間ではないが、あっと言う間にも感じるその期間、東京は際限ない変化を続けていた。趣のある古い街並は次々と消滅し、大規模な再開発が繰り返されて街の容貌は激変した。歴史を振り返ってみても、東京は常に破壊と再生を繰り返し、アメーバの様に変容する怪物であった。

関東大震災、東京大空襲、占領、高度経済成長、バブル、コロナ禍…いつの時代においても東京は闇と光が交差し、当所もなく人々が彷徨い歩く多面体のカオスであり続けた。文京区小石川に生まれ育った自分にとって、東京は故郷と言う想いを持つには余りに巨大な、愛憎相半ばする場所だった。その全体像は到底一人の人間に掴みきれるものではなく、どれだけ歩いてシャッターを切っても終わりの無い迷宮とすら感じてしまう。

これまでの作家活動の中で、1995年の初個展「Night Crawler」から始まり「White Noise」「DOWN ON THE STREET」等の写真集と写真展を軸に東京の作品を発表してきた。

今回、改めて30年間の写真を全て見直し、時間軸を解体して新たに空間として構成し、東京と言う巨大な迷宮をカオスのままギャラリーに再現したいと思う。

# 東京1995-2025

中藤毅彦 Takehiko Nakafuji

1970年東京生まれ。早稲田大学第一文学部中退。東京ビジュアルアーツ写真学科卒業。作家活動と共に東京・四谷三丁目にてギャラリー・ニエスを運営。都市のスナップショットを中心に作品を発表し続けている。国内各地の他、東欧、ロシア、キューバ、中国、香港、パリ、ニューヨークなど世界各地取材。国内外にて個展、グループ展多数開催。第29回東川賞特別作家賞受賞。第24回林忠彦賞受賞。



## CANON GALLERY S

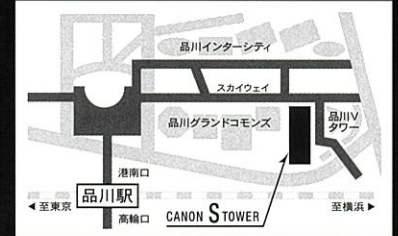
〒108-8011  
東京都港区港南2-16-6  
CANON S TOWER 1F  
TEL. 0570-07-9264  
10:00-17:30 日曜・祝日休館  
入場無料



キヤノンギャラリー S FACEBOOK  
ページにて開催中の写真展情報を随時更新中!



キヤノンギャラリーは2024年公益社団法人企業メセナ協議会より、「芸術・文化振興による社会創造活動」として「THIS IS MECENAT 2024」の認定を受けております。



JR品川駅港南口より徒歩約8分 / 京浜急行品川駅より徒歩約10分